

\*\*\*\*\*

(34:14)\*\*\* 洞-2 636ページ ヒルキヤ \*\*\* 4. ヨシヤ王の時代の大祭司。シャルムの子で、アザリヤの父。写字生エズラの父祖であったものと思われます。(王二 22:3, 4; 代一 6:13; エズ 7:1, 2, 6)ヒルキヤは大祭司として、ヨシヤの行なった真の崇拜を復興する業において顕著な役割を果たしました。神殿の修復作業が行なわれている過程で、ヒルキヤは、紛れもなく「モーセの手によるエホバの律法の書」を見つけました。その発見が特筆すべきものであったのは多分、その手書きの書がモーセによって書き記された原本であったためだと思われます。ヒルキヤはその書を書記官シャファンに渡し、シャファンはそれを王のところに持って行きました。シャファンがその書を読むのを聞くと、ヨシヤ王は王と民のためにエホバに伺う目的で大祭司ヒルキヤの率いる代表団を女預言者フルダのもとへ送りました。—王二 22:3-14; 代二 34:14。

\*\*\*\*\*

(34:19)\*\*\* 塔01 4/15 27ページ 生い立ちに成功を阻むものではない \*\*\* 「王は律法の言葉を聞くと、直ちにその衣を引き裂いた」と、エズラは書いています。これは、心からの悲しみを表わす動作でした。ヨシヤは、父祖たちが神のおきてを全部守っていたとは言えないことをはっきり理解したのです。これは確かに謙遜さのしるしでした。王は、直ちに5人から成る代表団を任命し、女預言者フルダを通してエホバに伺いました。代表団は、次のような趣旨の報告を持ち帰りました。『エホバの律法に対する不従順のゆえに災いが臨むであろう。しかし、王ヨシヤ、あなたはへりくだったので、安らかに自分の墓地に集められ、災いを見ないであろう』。(歴代第二 34:19-28)エホバはヨシヤの態度を喜ばれました。

\*\*\*\*\*

(34:33)\*\*\* 塔05 12/1 21ページ 8-9節 歴代誌第二の目立った点 \*\*\* 「ヨシヤはイスラエルの子らに属するすべての地から忌むべきものをことごとく取り除き、またイスラエルにいるすべての者に奉仕を始めさせ、彼らの神エホバに仕えさせた」と、歴代第二 34章33節は述べています。ヨシヤをそのような行動へと促したものは何だったのでしょうか。書記官シャファンが、発見されたエホバの律法の書をヨシヤ王のもとに携えて行くと、ヨシヤはそれを朗読させました。ヨシヤは聞いた事柄に非常に心を打たれたので、生涯を通じて清い崇拜を熱心に促進しました。神の言葉を読み、読んだ事柄を黙想するとき、わたしたちは大きな影響を受けます。

\*\*\*\*\*

(34:22)\*\*\* 洞-1 511-512ページ 女預言者 \*\*\* (おんなよげんしゃ) (Prophetess)  
預言する、もしくは預言者としての業を行なう女。「預言者」および「預言」の見出しの下に示されているように、預言するとは、基本的には靈感を受けて神からの音信を語り告げること、神意を明らか

にすることを意味しています。将来の出来事に関する予告が関係することあれば、関係しないこともあります。真の預言者と偽預言者がいたように、エホバに用いられ、エホバの霊に動かされた女預言者もいれば、エホバから非とされた偽女預言者もありました。

ミリアムは聖書の中で女預言者と呼ばれた最初の女です。神は彼女を通して、靈感による歌という形であったかもしれませんが、ある音信を、あるいは幾つかの音信をお伝えになったようです。(出 15:20, 21)ですから、彼女とアロンはモーセに対し、「[エホバは]わたしたちによっても話されたのではないのでしょうか」と述べたことが記されています。(民 12:2)エホバご自身も預言者ミカを通して、ご自分がイスラエル人をエジプトから連れ出すに当たって彼らの前に「モーセ、アロン、ミリアム」を遣わしたということの話されました。(ミカ 6:4)ミリアムは神の意思伝達の媒介者として用いられるという特権に恵まれましたが、そのような者としての彼女の神に対する関係は、弟モーセのそれよりも劣っていました。ミリアムは、しかるべき自分の立場を保たなかった時に、神からの厳しい懲罰を受けました。—民 12:1-15。

裁き人の時代に、デボラはエホバからの知らせを伝える情報源として仕え、バラクに対するエホバのご命令に見られるように、特定の事柄に関するエホバの裁きを知らせたり、その指示を伝えたりしました。(裁 4:4-7, 14-16)こうして、彼女は国家的な弱さと背教の見られた時期に、比喩的な意味で『イスラエルの母』として仕えました。(裁 5:6-8)女預言者フルダは、ヨシヤ王の時代に同様の仕方です。国民や王に対する神の裁きを知らせました。—王二 22:14-20; 代二 34:22-28。

イザヤは自分の妻を「女預言者」と呼んでいます。(イザ 8:3)一部には、彼女は預言者と結婚していたという意味でそう呼ばれているに過ぎないのではないかと言う注解者もありますが、この推測には裏付けとなる聖書的な証拠がありません。以前の女預言者たちと同じように、彼女もエホバから何らかの形の預言的な割り当てを受けていた可能性のほうが高いように思われます。

ネヘミヤは、「その他の預言者たち」と共にネヘミヤに恐れを抱かせてエルサレムの城壁の再建を妨害しようとした、女預言者ノアドヤを、好ましくない人物として語っています。(ネヘ 6:14)彼女は神のご意志に逆らって行動しましたが、それは必ずしも彼女がそれまで女預言者として正当な立場を占めていなかったことを意味するものではありません。

エホバはエゼキエルに、『女預言者として自分の心のままに行動していた』イスラエル人の女たちについて語られました。これは、それらの女預言者が神からの神聖な任務を帯びてなどおらず、単にまねごとだけの、勝手に女預言者を決め込んだ者であったことを暗示しています。(エゼ 13:17-19)それらの者は、人をわなにかけたり、だましたりするような習わしや宣伝によって『魂を追ひ詰め』、義なる者を罪に定め、邪悪な者を大目に見ましたが、エホバは彼らの手からご自分の民を救い出そうとしておられました。—エゼ 13:20-23。

西暦1世紀に、ユダヤ人がまだエホバの契約の民であったころ、年老いたアンナは女預言者として仕えました。そして、「神殿から離れたことがなく、断食と祈願とをもって夜昼神聖な奉仕をささげて」いました。彼女は、『エルサレムの救出を待つ人々すべてに、その子供[イエス]について語る』ことによって、啓示された神の目的を『語り告げる』という基本的な意味で女預言者として行動しました。—ルカ 2:36-38。

預言することは、新たに形成されたクリスチャン会衆に授けられた奇跡的な霊の賜物の一つでした。処女であった、フィリポの4人の娘のように、あるクリスチャンの婦人たちは神の聖霊に動かされて預言しました。(使徒 21:9; コリ 12:4, 10)これは、「あなた方の息子や娘たちは必ず預言する」と予告したヨエル 2章28, 29節の成就でした。(使徒 2:14-18)しかし、女は、そのような賜物を与えられたからと言って、自分の夫の頭の権や、クリスチャン会衆内の男子の頭の権に服従する必要がなくなっただけではありません。服従のしるしとして、婦人は預言する際には頭の覆いを着けなければならず(コリ 11:3-6)、会衆内では教え手の役をしてはなりませんでした。—テモ 2:11-15; コリ 14:31-35。

\*\*\*\*\*

(36:20-21)\*\*\* 塔06 11/15 32ページ ユダは荒廃したままでしたか \*\*\*

聖書は、ユダ王国の地がバビロニア人によって荒れ廃れた所となり、流刑にされたユダヤ人が帰還するまで荒廃したままになることを予告していました。(エレミヤ 25:8-11)この預言が実現したことを確信できる最大の根拠となるのは、流刑囚の最初のグループが故国に帰還してから約75年後に記された、靈感による歴史的記録です。その記録には、バビロンの王が「剣を逃れた残りの者たちをとりこにしてバビロンに連れ去り、こうして彼らは、ペルシャの王族が治めはじめるまで、彼とその子らの僕となった」とあります。そして土地については、『その荒廃していた期間中ずっと安息を守った』と述べられています。(歴代第二 36:20, 21)このことを裏付ける考古学上の証拠はあるのでしょうか。

ヘブライ大学のパレスチナ考古学の教授エフライム・スターンは、「聖書考古学レビュー」誌(英語)の中で次のように指摘しています。「アッシリア人とバビロニア人はどちらも、古代イスラエルを広範囲にわたって荒らしたが、それぞれの征服後に関する考古学上の証拠は、二つの全く異なった姿を伝えている」。同教授はさらにこう説明しています。「アッシリア人はパレスチナに自分たちがいた痕跡をはっきりと残したのに対し、バビロニア人による破壊の後には奇妙な空白がある。……ペルシャ時代に至るまではそこに人が住んだという証拠が見いだせない。……人が住んでいたことを示唆する証拠が全く欠落しているのである。その時期全体にわたり、バビロニア人に滅ぼされた町で人が再び定住した所は、ただの一つもなかった」。

ハーバード大学のローレンス・E・スティージャー教授もそのことを認めています。「フィリスティア全域、そして後にはユダ王国全域に及んだ」バビロニアの王の「焦土作戦により、ヨルダン川の西は全くの荒れ地と化した」と同教授は述べ、さらにこう続けています。「考古学上の記録は、バビロニア人にとって代わったペルシャのキュロス大王をもって、ようやく再開している。……多くのユダヤ人流刑者が帰郷したエルサレムやユダにおいても同様である」。

ユダの荒廃に関するエホバの言葉は、まさしく成就したのです。エホバが予告する事柄は必ず実現します。(イザヤ 55:10, 11)わたしたちは、エホバと、み言葉 聖書に記されている約束に、全き確信を置くことができます。—テモテ第二 3:16。